

幼児の喜びそうな漢字から

幼児に与える漢字を、どのようにして選んだらよいか、と言いますと、一口に言えば、幼児が喜びそうな内容を持った漢字が選択の基準です。そういう漢字が、幼児にとっては、最も覚えやすいのです。

記憶の原理は、一に“関心”二に“反復”です。「心ここにあらざれば、見れども見えず、聞けども聞こえず」です。関心の無いことは、幼児はどんなに熱心に教えてやっても決して覚えません。

幼児期は記憶力の最も旺盛な時だと、最近の脳生理学者は説いています。だから、幼児は関心をもって聞いたことは、覚えようという意志も努力もなしにこれを覚えてしまいます。だから、幼児の関心の強い内容を表わした漢字が最も覚えやすいのです。そういうやさしく覚えらる漢字から教えていくのが、最も効果的な手順ということが出来ます。

十数年前の実験で、“一”“二”という最も覚えやすいと思われる漢字を覚えるのに三か月もかかった能力の低い子供が、容易に“雪”や“雲”を覚えたのに驚きましたが、興味のない数字は、どんなにやさしく見えても覚え、興味ある“雪”や“雲”は、自然に記憶にとどまるものである、

ということをよく証明しています。

字画の簡単な漢字は、一般に覚えやすい、と思われていますが、“一”や“二”が覚えられないという例が示しているように、陥りやすい誤った推察です。むしろ、複雑な字形の漢字の方が、記憶の手がかりが多くて、記憶に残りやすい利点があるようです。複雑な顔の人の方が記憶に残るのと同じ理屈だと思います。

ともあれ、字画の多少などに関係なく、幼児にとって興味を示しそうな内容をもった漢字を選んで、そういう漢字から教えていけば、幼児は喜んで漢字を覚え、漢字を覚える能力も自然と発達するものです。